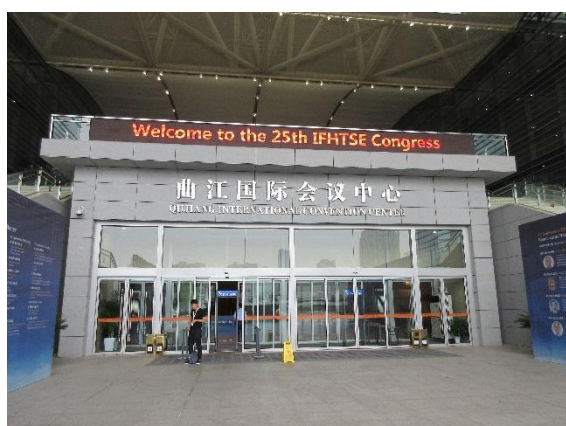


25th Congress of International Federation for Heat Treatment and Surface Engineering (25th IFHTSE) 参加報告

博士課程 3 年 武末翔吾

私は9月11日～14日に開催された25th Congress of International Federation for Heat Treatment and Surface Engineering (25th IFHTSE)に参加および発表致しました。本国際会議は、熱処理を扱うもので、最近は毎年開催されています(昨年はフランス・ニースで開催)。今回は中国熱処理技術協会が主催で、中国・西安で開催されました。西安は中国の中心付近に位置し、シルクロードの出発地点としても知られ、多くの観光客が訪れる大都市です。日本からの直行便もあり、比較的訪れやすい都市です。

今回は、9月11日にIFHTSEの役員会や中国熱処理技術協会の理事会などが行われ、12日から本格的な会議が実施されました。12日にはオープニングセレモニーと8人の講演者によるPlenary lectureが行われました。Plenary lectureでは、ダイヤモンドライクカーボン薄膜や表面のナノ結晶化に関する講演など、熱処理に限らず、表面改質について広い分野の講演がありました。13、14日はオーラルセッションとポスターセッションが行われました。中国の研究者を中心に、オーラルセッションで約450件、ポスターセッションで約150件の発表がありました。セッションの内容としては、窒化や浸炭、焼入れなど、熱処理の中心分野を扱ったセッションから、ショットピーニングなど、熱処理以外の表面処理を扱ったセッションまで、こちらもPlenary lectureと同様に、幅広い分野を扱っていました。そのため、本会議への参加は、金属の表面処理に関する研究動向を把握する良い機会となりました。



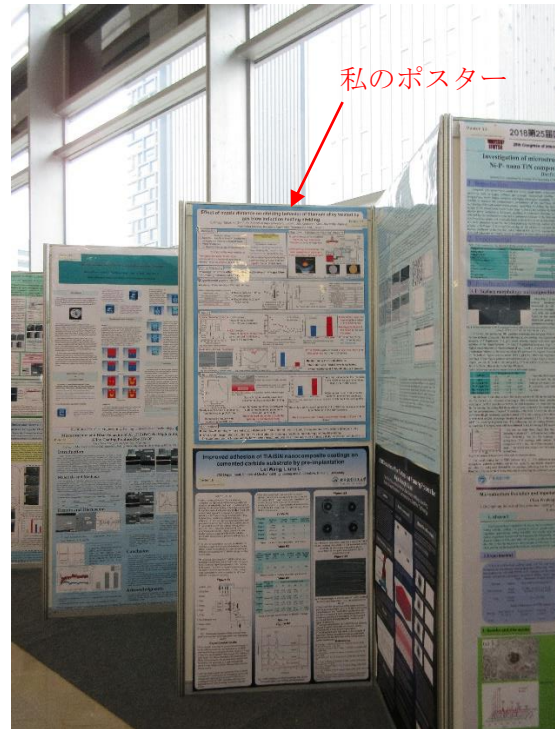
学会会場 (Qujiang International
Conference Center)



Plenary lecture の会場の様子



オーラルセッションの会場の様子



ポスター展示の様子



バンケットの会場の様子

今回、私はポスターセッションで、“Effect of nozzle distance on nitriding behavior of titanium alloy treated by gas blow induction heating nitriding” という題目で発表しました。国際会議での発表は今回で6回目となりましたが、ポスターでの発表は初めてでした。オーラルセッションでの発表よりも、興味を持っていただいた方と深い議論ができますが、その分、更なる英語力の必要性を感じました。今後は、ただ自分の発表内容を伝えるのみならず、しっかりと研究内容について議論できるレベルの英語力を身に着けなければいけないと感じました。

次回（2019年）の本会議（26th IFHTSE）は、9月17～19日にロシア・モスクワで開催されます。ご興味のある方は参加をご検討されてはと思います。

最後になりましたが、本国際会議で発表する機会を与えていただいた小茂鳥先生、本発表で連名者となっただき、日本熱処理技術協会での活動をご支援いただいた高周波熱錬株式会社の川寄様、三阪様に御礼申し上げます。現地では豊田工業大学の南部先生にお世話になりました。この場で感謝申し上げます。